

第4回流山市子ども・子育て会議 会議録

日時

平成30年12月14日（金） 午後1時30分～午後3時

場所

流山市役所 第1庁舎 3階 庁議室

出席委員

柏女委員・吉川委員・鈴木委員・岡本委員・小沼委員・田邊委員
藪本委員・手塚委員・田中委員

欠席委員

松本委員・櫻庭委員・吉田委員・堀江委員

事務局

熊井子ども家庭課長、秋谷子ども政策室長、倉本子ども家庭課主任主事、
株式会社サーベイリサーチセンター 世論・計画2課石塚課長

傍聴者

3人

議題

- (1) 第2期子どもをみんなで育む計画の策定について
- (2) その他

配布資料一覧

次 第：第4回流山市子ども・子育て会議次第

資料 1：第2期子ども・子育て総合支援計画に関するニーズ調査項目について
(子ども子育て会議及び部会での意見及びその修正案等 要旨)

資料 1-1：(素案) 流山市子ども・子育て支援事業計画策定に関するニーズ調査
～就学前の子ども用～

資料 1-2：(素案) 流山市子ども・子育て支援事業計画策定に関するニーズ調査
～小学生用～

資料 1-3：(素案) 流山市子ども・子育て支援事業計画策定に関するニーズ調査

～ヒアリング調査用～

資料 2：ニーズ調査・ヒアリング調査実施要領（案）

議事録《概要》

《事務局》

ただ今から、平成30年度第4回流山市子ども・子育て会議を開催させていただきます。

《会議成立の報告》

議事に入る前に会議の成立について申し上げます。本日の会議につきましては、委員13名中9名の出席となっておりますので、本会議が成立していることを申し上げます。

また、本日もニーズ調査の委託業者である「株式会社サーベイリサーチセンター石塚様」がニーズ調査実務者として事務局側に同席しております。

また、今年につきましてはいくつかの会議がございました。来年は具体的に今年度のニーズ調査実績に基づきまして新たな計画を作る予定です。来年度におきましても宜しくお願いします。

それでは、柏女会長に議事進行をお願いします。

《会長》

それでは進めてまいります。

今日のテーマは第2期子どもをみんなで育む計画の策定をしていくためのニーズ調査について、部会で意見を揉んでいただいておりますし、委員の方々から頂いている意見を踏まえて、調査票を決定したいと思います。

また、調査と同時に市ではヒアリング調査を行う、少数意見の方々の意見も幅広く吸い上げるということを大事にして、ヒアリング調査を行うということになっておりますので、これについても確定したいと思っております。

部会で検討頂いた結果を報告して頂き、最終的にご意見を頂くということにさせていただきますと思います。

では、議題1について事務局から説明をお願いします。

《事務局説明》

《会長》

部会等の意見を反映させて事務局から修正案を作成して頂きました。

ヒアリング調査箇所については、次の議題で行いたいと思います。まずはニーズ調査、ヒアリング調査項目について固めたいと思いますが、ニーズ調査についてご意見ありますか。

《田中委員》

資料1の2番、ファミリー・サポート・センターの注釈ですが、この内容だと、一時預かりのみとってしまうので、たとえば「地域住民がお子様の一時預かりや保育施設への送迎を行う事業」という形にしたほうが幅が広がるのではないのでしょうか。

《事務局》

たしかにファミリー・サポート・センター事業は預かるだけの事業ではないので、委員のおっしゃったように、送迎等もう少し手を加えさせていただきます。

《会長》

地域住民の方々の一時預かりだという主旨を入れて頂くということですね。

では、いまの形で反映させていただくということをお願いします。

他にありますか。

それでは、事務局の提案、田中委員の修正案をもって、ニーズ調査の確定にしたいと思いますがよろしいですか。

《各委員》

はい

《会長》

小学生用も反映するということがよろしいですね。

次に、ヒアリング調査票についてですが、ヒアリング時にエピソードを挙げてもらうということで、項目を増やすということでしたが、それについて何かありますか。

では、ヒアリング用の調査票もこのままということをお願いします。

私の方から1点、多子世帯の把握に関して、就学前のこども用の調査票 P2 問 3 ですが、どのように結果を反映するというのでしょうか。調査票からクロス集計のときにはどういう風に見るのでしょうか。

《サーベイリサーチセンター石塚氏》

兄弟数を伺っているのので、2人兄弟、3兄弟をグルーピングすることでクロス集計は可能です。世帯の分析時は末子の年齢で分析することが可能です。末子の学年を聞いていることによって、本人の年齢と末子の年齢が違えば、さらに小さいお子様がいる世帯ということでクロス集計が可能となります。

《会長》

対象就学前の2,000世帯の回収率が65%だと約1,300世帯位ですが、多少優位さとかは出るものですか。

《サーベイリサーチセンター石塚氏》

基本的にこのような調査で回収率が高いということは、優位だと思います。流山市は他に比べて高い回収率を誇っていると思います。

各年齢層、1歳刻みの5歳階層で行った場合、有意義な回答は得られるのではないかと見込んでいます。

《事務局》

回収率の訂正ですが、就学前世帯からの回収率は69.2%でした。小学生の方からの回収率は64.5%でした。

《会長》

皆様方がそれぞれの関係団体の保護者の方々にご協力していただければ、回収率も上がるかと思えます。

それでは、ニーズ調査の中身についてはこれでよろしいでしょうか。

ありがとうございます。

では、次に実施体制について事務局から説明をお願いします。

《事務局説明》

《会長》

ありがとうございます。ヒアリング調査の実施方法等については部会で決めていますか。

《事務局》

部会では、主にヒアリング箇所についてご意見をいただきました。

調査の実施方法としては、実施調査員（サーベイリサーチ調査員か市職員）が
出向き、対面でのヒアリングによる調査をしたいと考えております。それぞれの
施設の性質により、困難な場合は、より回答しやすいように、事前配布等をする
など、委託先と責任を持って行いたいと思っております。

たとえば、児童センターなどは出口調査等で聞けるパターンもありますが、前
回の里親会は集まって頂いてグループで回答をいただいておりますので、両方
のパターンがあります。

《会長》

今回も両方ですね。たとえば、つばさ学園で実施する場合はどうでしょうか？

《事務局》

当日の利用人数によって変わってくるので、事業者と調整して、なるべく多く
の保護者の方が集まる場所、時間帯で実施したいと思っております。

《会長》

わかりました。グループ調査だと何人位とか決めておいた方がいいのかなと
思ったのですが。

《事務局》

前回の時は、4～5人の方でした。この時は時間も余裕がありましたので、一
人一人聞く事が出来ましたが、10人以上は難しいのではないかと思います。

《会長》

そうですね。グループ調査をする時は、10人以内に絞った方がいいのではな
いでしょうか。

グループ調査は回りに触発されて意見が出るメリットがありますが、逆にデ
メリットとしては、プライベートなことは話しづらいということがありますね。
そこは、少し工夫をしないといけないと思いますね。

《藪本委員》

先の話になるかと思いますが、ヒアリングの内容や情報を基に計画の再策定
をしていくときに、定性情報をいかに計画の中に位置づけていくかというこ
とが重要だと思っておりました。

計画の中で議論する場をしっかりと作っていかなければならないと思っていま
す。折角頂いた意見が伺っただけで終わってしまうのは非常に残念なので、議題

として挙げていくのが重要なのではないのでしょうか。これは要望として出させて頂きます。

《会長》

ありがとうございました。

たしかに、ニーズは伺ったけれど、それを新しい政策の中でいかに活かしていくのかということについての議論をする時間があまりなく、どうしても量の見込とか学校方策の方に焦点がいつてしまっていて、議論が薄かったように感じます。

そこは意識して進めていきましょう。

他にありますか。

《田中委員》

支援学校と支援学級についてはどうするのですか。

今回の調査対象には入っていませんが、それはどうするのですか。

《会長》

学校そのものの在り方については、県の業務でもあるので、流山の計画の中に入れるのはなかなか難しいと思いますが、放課後デイで中・高生にニーズを聞くことはできますね。

《田中委員》

まほろばさんは、幅広い年齢ですか。

《事務局》

まほろばさんでは、流山市民に絞っての調査となると思います。

《会長》

放課後デイはたくさんありますよね。

《田中委員》

あります。

《事務局》

前回、障害者支援課と話し合っていて、前もってお願いしているというところもありますので、放課後デイや民間施設への追加は可能かと思っています。

《田中委員》

支援学級はできますよね。
皆悩んでいるので、色々意見が出てくると思います。

《会長》

教育委員会との調整になると思いますが、可能ですか。

《事務局》

ここでお答えは難しいですが検討します。

《会長》

他にありますか。

手塚委員から出ていた、転入してから間もない方の意見はどうなりますか。

《藪本委員》

それは、商業施設でのヒアリングというところの話だと思います。

《手塚委員》

転入者や支援施設に行っていない人たちからのヒアリング対象として商業施設を入れることを部会で議論しました。

《会長》

商業施設の中で声を掛ける形ですか。

《事務局》

イメージとしてはそういう形です。施設の中か外かと言う部分では、協議が必要となります。

《手塚委員》

意図しているところは、どこにも接点を持っていない方を対象にしたいので、イトーヨーカドー内外のフリースペースなどが、該当者を見つけやすいのかなと思います。

《吉川委員》

新築マンションなどでのヒアリングはどうでしょうか。

《藪本委員》

転入してからしばらく経過しないと、孤独感等が出てこないのか、一定期間経過した方を対象にヒアリングが必要なのでしょうか。

《会長》

実施ではサーベイリサーチさんと市職員で行いますか。

《事務局》

そうですね。聞き方等はサーベイリサーチの持つノウハウを活用していきたいです。

《会長》

決まった場所であれば、会議委員が同席するという事は可能でしょうか。

《事務局》

問題ないかと思えます。

《会長》

日程が決まったら委員に流していただいて、ここが聞いてみたいということもあるかと思えますので、同席させてもらっていいですか。

《事務局》

はい

《会長》

委員の皆さんにも参加していただくのもいいかなと思います。そこで聞いた意見も会議の中で反映することができますので、ぜひやってみましょう。

《小沼委員》

学童クラブでの調査方法にイメージが湧かないのですが。

《事務局》

帰り時間に出口調査か事前に配布するイメージです。

《会長》

相談していただいて、多くの回答を得たいのであれば、自由記述という方法や、5～6人のヒアリングを併用するという方法もありますので、それぞれの特性

を生かした方法で進めていただければと思います。

実施期間ですが、短くないですか。

《サーベイリサーチセンター石塚氏》

実質3週間に近い期間です。通常に比べて短いということはありません。

回収率は郵送直後が一番良く、長く設定しても回収率が上がるということはありません。

《会長》

それでは、実施要領についてもこれをお願いするというので、場所や期間、実施方法についてはそれぞれ調整して頂くようにお願いします。

その他についてはなにかありますか。

《手塚委員》

議事録をウェブ上で公開していても、見てくれる人は本当に限られています。流山市ではこういうことをやっているということをパフォーマンスとして伝えていくのも必要ではないでしょうか。

折角集めた情報やデータを共有する仕組みをつくっていったらいいのではないのでしょうか。

《会長》

議事録と資料だけで配布されているけれど、そこにアクセスしてもらう事だけではなかなか広がっていかないなので、他のツールも考えていかなければならないと思います。

この会議の中で計画が出来た時、あるいは計画策定段階の中で、どんな収集方法があるのか議論していきたいと思います。

ワークショップも重要な収集方法だと思うので、やり方やお知らせの仕方、関心をもってもらう方法など議論することも大事だと思います。

貴重な御意見ありがとうございました。

以上で会議を終了します。ありがとうございました。

《閉会》